

## J A初の営農指導実践全国大会で最優秀賞 あつみ農地保全組合の佐藤昌幸氏



J A全中は2月23、24日に東京都内で、初の「J A営農指導実践全国大会」を開催し、全国8ブロックから特に優れた営農指導員などの取り組みを紹介、表彰しました。

最優秀賞は「J A出資型法人による地域ぐるみで中山間地域を守る取り組み」(株)あつみ農地保全組合の挑戦」と題して発表したJ A庄内たがわ(山形県)営農販売部営農企画課の佐藤昌幸氏が受賞しました。

農家の高齢化に伴う離農が進み、休耕田増加による病害虫の被害や獣害などの問題をJ A出資法人「(株)あつみ農地保全組合」を2012(平成24)年6月設立し、解消へむけた取り組みを紹介しました。

審査委員長を務めた東京農業大学丸山清明客員教授は、「並みの情

熱ではできないことを実現した」と高く評価したことが報道されています(農業協同組合新聞2月24日付から)。

佐藤昌幸氏は、06(平成18)年4月から11(平成23)年3月まで5年間、藤島支所に営農指

## 東洋大学社会学部「庄内藤島調査」報告会



東洋大学社会学部の「庄内藤島調査」報告会が24日、藤島庁舎で行われ、調査に関わった学生や農家、市民、市職員など約80人が出席しました。

同調査は2007(平成19)年度から毎年実施され、昨年11月12日には10周年記念講演会が開催されました。

学生の指導担当の阿部英之助・非常勤講師(名古屋大学大学院教育発達科学研究科特任

導員として配置され、「農事組合法人ジェイ・エイ庄内たがわ藤島農地受託組合」や「J A庄内たがわ藤島無人へり防除組合」などの経験に学んだと言います。

講師、及び佐藤正規・藤島支所長があいさつを行い、7つの調査チームの学生がそれぞれ報告、参加者から質問や感想が出されました。

- ①ふじの花―歴史公園や藤島の街づくり
- ②教育―庄内農高の役割、進路、学生生活
- ③食文化―食文化創造都市、郷土料理
- ④すいおう―特産化の課題
- ⑤福祉―障害者福祉高齢化対策
- ⑥お米(P R)―つや姫の販売戦略
- ⑦お米(消費)―新規就農者、耕作放棄地の7つです。

## みちのく

## 柳壇

あきた・じゅん選

羽ばたいて平和な国にしておくれ

(鶴岡市)本間 勇

## 【新連載】

## 庄内地方の凧文化 ①

子どもは風の子、遊びが本業

鈴木隆(小中島)



今年の冬は、1月中旬に連続して数日間の大雪に見舞われ、この先どうなることかと心配したが、一時的な下力雪で済みホッとした。

一方、鳥取を中心に中国地方は33年振りの記録的な大雪の被害で大打撃を蒙った。

近年は確かに温暖化傾向にあることは実感できるが、爆弾とかゲリラとか言うような過激な異常気象が全国無差別に起きている。

私が子どもの頃は結構雪が多く、家の出入口には何段かの雪の階段を付けたり、道路までの歩き道は藁で編んだ「踏み俵」で踏み固めて往來した。大寒頃ともなれば軒先に太い「氷柱」が下がるなど、寒さは半端ではなかったが、その頃の暖房と言えは火鉢や、糊殻をイヤした「糠炬燵」、それに炭の「アンカ炬燵」が一般的で、長い冬を越すのは容易なことではなかった。

当時は家族の人数が多く、周りとの人の繋がりが強く、冬でも割合人目が届き易かったことから、今、テレビや新聞で見えるような自宅周りで雪による死亡や重大事故の発見が遅

れるという事は少なかつた。

さて、冬から春先にかけての子ども(特に男児)の遊びと言えは、凧揚げとスキー、それに独楽廻しだった。子どもは風の子と言われるように、冬の最中(さなか)でも寒さを物とせず、手足を「しも焼け」でブドウ色にしながらも遊びに夢中だった。吹雪で高く積もった雪山は格好のスキーゲレンデとなり賑わった。独楽は春一番が吹く頃からで、村の鍛冶屋で木独楽に鉄を巻いて貰い、相手の独楽をぶつけ飛ばして勝敗を競うもので、その時節にはあちこちの農家の稲倉から独楽のぶつかり合う音や歓声が聞こえて村の中は活気があった。

そして、庄内の凧揚げは寒さの一番厳しい大寒頃で、西風が安定して吹き、周りには障害物がない事から、庄内では昔からこの時期の凧物詩としてよく揚げられていた。

(題字は鈴木隆氏)

本間勇氏(上平形)作の川柳が朝日新聞1月25日付「みちのく柳壇」の第一句になりました(上句)。

「トりの今年。静

かに霧が開いたが、今年こそはトりの大きな羽ばたきで悪や災害を一扫し、平和な国にしてほしいもの。みんなの願いだ。」の評です。

# 「小さな山旅日記より」

新町 齋藤留治

## 山小屋の奥さんの健康法

客が寛ぐ部屋を持つ山小屋では、いつも1人や2人「山旅自慢」に話を咲かせる人がいる。

小屋の中に入れば食事や荷物整理以外何もすることが無く、「なんと自慢が好きなんだ」と思いながらも、これが結構面白く思わず聞き入るので不思議なものである（話好きな人は女性登山客がいるとなお話に力が入り止まらなくなる人も）。

そんな自慢話を聞く為ではないが、ある年の晩秋に私は信州霧ヶ峰高原を歩いていた。小屋に向かう途中の山の頂からは、数年前に東京から京都まで一人でテクテク歩いた中仙道の和田峠付近の道路が見えたりして、「いやー信じられない」と感無量。私に「どっから歩いて来たや」と尋ねて餅を食わせてくれた峠の茶屋の親爺さん、顔を見せてくれたなぐつて良かった熊さん達は冬眠の準備だろうか等と想像を巡らして

歩いた。

この日、日暮れが早い秋の日に合わせて予定を組んでいたので、小屋には日暮れ前の早いうちに着いた。

晩飯まで何もする事がなく、他に泊まり客もいないようなので、退屈まかせに「太極拳の練習でもするか」と思いついて談話室へ。

太極拳練習には広い場所も要らないので、どこでも練習できるから「良い趣味を持つ事ができた」と、密かに思いながら練習を終えて夕飯を食べに行くと、誰も見ていないと思っていたが意に反して小屋の奥さんがちゃんんと見ていたということ。

「あれ、奥さん太極拳をやるの？」と尋ねると、彼女は私よりも一段階上。高原の山小

屋は寒いので、身体が資本と習い始めたのが中国武術太極拳だったという。

太極拳は血行を良くする効果も期待出来る、暇を見つけては練習をしているというのであった（先日、届いた便りでは練習に励んでいると添えられてあった）。

今、私も時間を見つけてスタンレーの体育館で身体を動かしているが、上手下手を別にして最近血液の循環が良くなったと感じるのは手前味噌だろうか。

無料で利用させてくれるスタンレーさんに感謝、感謝である。



## 憲法の精神・骨子は幕末(150年前)から日本国民がつくった誇れる憲法 福島県南相馬市が昨年憲法全戸配布

「あらためて憲法を学ぶ 青山崇

「押しつけ憲法」「時代に合わない」などの論がある。しかし、すでに幕末から憲法の精神に通ずる憲法草案が



(鈴木安蔵は福島県南相馬市小高区出身)

あった。1867(慶応3)年(翌年明治元年)、赤松小二郎(現長野県上田市)が有力藩主に建白書を提出、民主的な普通選挙による議会政治、議会が国の最高議決機関、教育の機会均等、公平税制などを提言している。さらに明治10年代の自由民権運動で60もの民間憲法草案(私擬憲法)が作成され、中でも植木枝盛起草の「東洋大日本国憲法按」は現憲法の

の基ともいわれている。

鈴木安蔵は戦後の著名言論人をつくった憲法研究会で彼が起草した「憲法草案要綱」が「民主主義的で賛成できる」として連合国軍総司令部(GHQ)案の下敷きとなった。日本国民が憲法をつくったのである。

鈴木は甚大な原発被害を受けた福島県南相馬市小高区出身である。この南相馬市が昨年の憲法記念日に全戸(約2万5000)に憲法



## 国会、疑惑と混乱の

ためだぜ・あれだほ。と思うでしょ。国会中継を見ていて、あんな答弁でいいのなら、誰だって大臣が務まるというものだぜ。

▲もともと誤魔化しはぐらかしが多い論戦誰かが書いた物の棒読みではまともな答えにはならないから、突っ込まれる。さあ困った。後ろからのササヤキがないと答弁席に戻ってこれられないとなる。

▲それでもマトモでないから議長席に理事が集まり、速記を停めてくださいと議長。これの繰り返しだが国会の論戦だぜ。見ていてウンザリだよ。

▲いよいよとなると首相が答弁席へ。これじゃ防衛大臣を一人前ない大臣だと認めたことになるんだぜと諭されるシマツダ。

▲実際は戦闘状態だから、南スウダンの報告

小冊子を配布した。市内四つの「九条の会」が市議会に陳情し実現したもの。「震災と原発事故で憲法が保障する健康で文化的な生活が

かなえられない市民がいる。憲法とは何かを考えていただきたい」との桜井市長挨拶がある。「はらまち九条の会」

山崎事務局長は「原発に踏みこじられたこの南相馬から、憲法を生活に生かす取り組みを進めたい」と話している。

書を廃棄処分にしたとウソコイで、自衛隊を派遣したことがハッキリした。これは大臣が憲法違反を隠していたんだぜ。今もそんな状況なんだと国連の報告だ。それでも隠すために報告書はノリ弁状態にされていたんだ。

▲早速防衛大臣を辞めさせると共に、自衛隊を一日も早く引き上げることでしよう。戦後初の戦死者などが出ないうちにヨ。

▲もう一人ヤジャガネ大臣がいるとは、誰でも気づいている。出てくると咳払いをしてから答弁する法務大臣だ。ぞんざいな答弁のうえ当を得ていない。法律が理解できないんだから務まらないんだ。

▲今・国会はおかしいですよ。天下り問題に二人の大臣での混乱。新たに首相の名前がチラつく土地問題と。これぞ数の驕りの到りだ。

(石川)